



下呂市農業委員会だより

平成25年2月1日発行

vol.2

下呂市農業委員会

下呂市萩原町萩原1856 TEL.0576-52-2000

<http://www.city.gero.lg.jp/>⇒行政情報⇒市政の情報

利用状況調査を行いました

前回のたよりでもお知らせしておりました、農地法に基づく農地の「利用状況調査」を十月～十一月に行いました。

耕作・保全管理に努められ前年より改善された農地もある一方で、新たに遊休化している農地も多く見受けられました。現在調査結果は集計・整理中ですが、全体的に遊休農地は増加傾向となっています。

これから遊休農地に対しては農業委員会・市の取り組みはもちろんですが、発生防止の強い心構えを所有者・耕作者のみなさまにお持ちいただくことが何よりの力です。



※悠久とは…果てしなく長く続くこと。農地は農地として有り続けたいという意味が込められています。

建議・要望提出

十一月二十八日に、市長、市議会議長に、今後農家が先を見通して安心、安定した農業経営を行えるように、戸別所得補償制度の法制化がなされるよう市として働きかけを願うべく建議並びに申し入れを行いました。



■左より 中島議長・野村市長（市）／金森委員長・林職務代理（農業委員会）

※建議とは…創刊号でも紹介しました通り、農業者の代表として行政へ意見を申し述べることで、農業委員会の公的代表機関連業務の一つです。

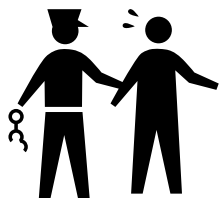
ストップ!! 違反転用

……こんな厳しい罰則も……

優良農地を守り活かすために

違反転用・違反転用における
原状回復命令違反には…

3年以下の懲役または
300万円以下の罰金
(法人は1億円以下の罰金)



農地を農地以外の用途（建物用地・駐車場・山林等）に転換することを「農地転用」といい、許可制度となっています。この許可を受けずに行われた農地転用や、許可を得た申請の通りに転用されないことを「違反転用」といい、工事の中止や原状回復命令がされる場合もあります。ご自身の土地を自ら形質変更、または他の方へ貸したり売ったりされる際には、農地でないか一度ご確認ください！

まめなかなか！農家訪問

「好きだから」はじめました

農業活性化法人 飛騨小坂ファーム 長瀬 裕文さん

飛騨小坂ファームさんでは、もともと水稻の作業受託を中心に行われていたところ、冬期間に稲作と重ならず行える作物を、と考えられ、自然薯の栽培を始められました。生産サイクルの都合はもちろんです、決め手は「自然薯が好きだから、地域の新ブランドにしたい」との思いだったそうです。

今年度の五月三十一日には東海農政局の六次産業化法に基づく事業認定を受けられ、カット加工やすりおろした自然薯製品の販売もされており、現在は名古屋を中心に中京圏への販路拡大に取り組まれているそうです。

今年度は千五百本程の作付けでしたが、来年度は三千本予定しているとのこと。また、畑の一部を提供されて小学生が植えた分の収穫体験も取材日に行われました。水稻受託とともに、地域の活性化にもつながるこの自然薯栽培が、より長く太い実をつけていくのが楽しみです。

(桂木寛明委員取材)



▲おっきくながなくなったかな… 収穫する小坂小3年生のみなさんと長瀬裕文さん(右手前)・誠さん(左手前)

遊休農地の解消

十一月三十日に萩原町萩原地内の遊休農地32aについて、下呂地域担い手育成総合支援協議会の構成団体として、下呂農林事務所・市・JAの方々と共に、再生作業を行いました。農業委員会からは委員13名が参加し、草刈り、用水路復旧などに取り組みしました。



よし！再生開始！

◀一斉に草刈りをする参加者！
人数の力でスムーズに進みました。



来年度の農業委員会総会日程・申請締切日

許可日は申請の種類により総会後の約1ヶ月後になるものもあります。

年/回	申請締切	総会	年/回	申請締切	総会
H 25 第3回	3/11(月)	3/25(月)	H 25 第9回	9/10(火)	9/24(火)
H 25 第4回	4/9(火)	4/23(火)	H 25 第10回	10/10(木)	10/24(木)
H 25 第5回	5/10(金)	5/24(金)	H 25 第11回	11/1(金)	11/15(金)
H 25 第6回	6/11(火)	6/25(火)	H 25 第12回	12/11(水)	12/25(水)
H 25 第7回	7/11(木)	7/25(木)	H 26 第1回	1/10(金)	1/24(金)
H 25 第8回	8/9(金)	8/23(金)	H 26 第2回	2/10(月)	2/25(火)

〈編集後記〉

農地パトロールを行って不耕作地の年々増加に驚くばかり。道路脇の便利な土地でさえ…

日曜農業でも少しの労力をかければおいしい旬の野菜を味わう楽しみが持てるのに、と思います。健康・食の安全のためにも遊休地を耕し、自らの目で食物の育つ姿を皆が楽しめるように、若い人たちがこの日本の土地を守り続けられるように、農業委員の思案のしどころです。頑張らなくては！ (日下部忠美)

●編集委員

・日下部忠美 ・林 忠和 ・桂木 寛明
・二村 明 ・松嶋 光秋



この国の 農と食を 伝えます。

農業者の視点でお届けします

週刊

《金曜日発行》

●月 600円

●年 7,200円

お申込みは農業委員会まで